

## 山口県におけるタスク・シフト／シェア講習会の現状と今後の展望

◎岡田 宏之<sup>1)</sup>、安岡 佳成<sup>2)</sup>、中杉 義男<sup>3)</sup>、楢林 秀記<sup>4)</sup>

JA 山口厚生連 周東総合病院<sup>1)</sup>、山口県済生会下関総合病院<sup>2)</sup>、総合病院山口赤十字病院<sup>3)</sup>、萩市民病院<sup>4)</sup>

【はじめに】「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法案」が可決し、令和3年10月より新たに10業務が拡大され、臨床検査技師の活躍の場を拓けるチャンスとなった。

それによりタスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（以下実技講習会）が全国で開始されたが、山口県ではコロナ禍の影響で当初は延期せざるを得ず、日臨技5か年計画の3年目が過ぎた現在計6回の開催となっている。なお、毎回申し込みが伸び悩むことはなく、開始時間の0時から申し込みが殺到してその日の昼には満員となり、キャンセルが出て直ぐに埋まるという状況であった。日臨技5か年計画の後半に差し掛かること、基礎受講修了者数が実技講習会募集人数の60人を下回ったことからひと段落したと判断し、山口県内の現状を確認するためにアンケート調査を実施したので報告する。

【対象と方法】山口県臨床検査技師会の会員施設116施設に実技講習会受講状況や未受講理由、受講料の負担先、講習会前後での業務の変化などをアンケート調査した。調査

期間は第6回実技講習会終了後の12月～1月とした。

【結果】回収率や回答結果の詳細については学会当日報告する。

【考察】この講習会を通じて新たな業務への関心と取り組みが各施設で見られ、確実に活躍の場が拓がってきていることが実感できた。

一方で、全会員846名中修了者は362名と43%しか修了しておらず、また、来年度予定している実技講習会では基礎修了者が50名に満たない可能性もあり、今後の山口県での実技講習会のあり方、中四国支部を含めた合同実技講習会の開催等を検討していかなければならない時期に差し掛かっていると思われる。

今回のアンケート結果を会員にフィードバックすることにより、タスク・シフト／シェアに関する効果的な情報共有、今後の対策となれば幸いである。

【謝辞】実技講習会を開催するにあたり、今回共同演者に登録できない講師や実務委員の皆様にも多大な貢献をして頂き深謝申し上げたい。連絡先：0820-22-3456